

NPO 塾全協 第 42 回 全国研修大会 レポート

日時 ; 2016 年 (平成 28 年) 11 月 3 日 (祝)

13:30~16:45 研修会

17:00~19:00 懇親会

場所 : アルカディア市ヶ谷 6F 霧島

テーマ : 英語教育の課題とその克服 パートⅢ

参加者数 : 95 名

文と写真 : NPO 塾全協 全国事務局長・東日本ブロック広報局長 中村基和

開会セレモニー

挨拶する沼田広慶 NPO 塾全協会長 (左) と内藤潤司 NPO 塾全協東日本ブロック理事長 (右)



第 1 部 講演会

講師 : 松平和樹氏 (公益財団法人 日本英語検定協会 高大接続/カレッジスペシャリストチーム)

テーマ 「4 技能テストで今注目される TEAP について」

《概要》今日は次の 4 点について述べて行きたい。(1) 大学入試選抜を取り巻く動き (2) TEAP/TEAP C B T 概要・問題内容紹介 (3) TEAP 活用事例 (4) 英検リニューアルについて

昨今は、英語は 4 技能を測るテストをやっていかないと、これからグローバル人材を育成に向かってやって行けないだろうという流れになっている。大学関係者へのアンケートでは、4 技能型の入試をやった方が良い、入学した後にも良い影響があると 7 割くらいの方が答えているが、自分の大学で独自に 4 技能試験をやる事が出来るかというところ 6 割以上が出来ないと思っている。

TEAP は 2 年前からスタートしたシステムである。大学入試は大部分が reading 中心になっているのが現状だと思うが、そういった所を含めて高校と大学の接続が出来る様に TEAP が開発された。センター試験や英検



は一般的・ジェネラルな英語力を測るものと言われている。TOEFL などはアカデミックな英語力を測るものと位置づけられている。TEAP のレベルは英検で言うと準2級から準1級くらいのものであり、2級くらいと言われているセンター試験よりは1ランクレベルが高い。内容は大学での授業で遭遇する場面、アカデミックなものに関連した場面に特化している。たとえば買い物での店員とのやりとりなどは一切出ない。TEAP は午前 reading と listening、午後 writing と speaking の試験を行う。writing の時間は70分。200字のエッセーを書いて貰うものと英文を200字に要約して貰うもので、感想文的なものを書いてもなかなか点数が出ない。アカデミックライティングで起承転結がしっかりしていないと点がでないのが高校生にとってハードルが高いと思われるようである。スピーキングの受験時間は約10分。PART1~4まであり、PART2では受験者の方から試験官に質問をして貰って試験官が答えるという英検とは反対のやり方(role play)を行っている。④大学入試での活用例は次の4つである。①出願基準方式、②みなし満点/みなし配点方式、③加点方式、④個別試験代替方式。出願基準方式では一定の基準を満たしていないと出が出来ない。みなし満点/みなし配点方式は英語が得意な人が有利になる。

英検について、2級にも手書きの writing を導入した。下の級にも4技能化するように努力中である。

(場内からの質問) TEAP を学校単位で受けられるようになるか。

(松平氏) その方向で検討中である。

第2部 講演会

講師：安河内哲也氏（財団法人 実用英語推進機構 代表理事）

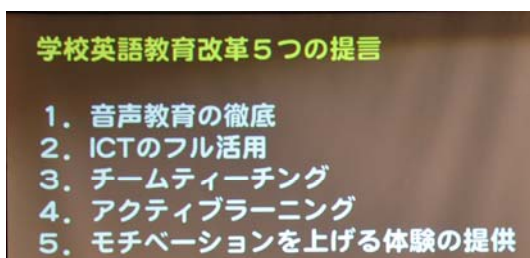
テーマ「英語4技能を伸ばすためのアクティブ・ラーニング」



《概要》 世界は4技能でないと認めてくれないのに、日本は2技能ばかり。Speakingは全体的な能力が要る。読解力、論理的な能力、そして国語力も必要である。

これからはセンター試験と同じレベルの英検2級が2600点満点の4技能スコア型になる。例えば早稲田大学は合格しただけでは試験免除にならず、2200点で免除になる。2021年からはセンター試験が4技能型になる。

麹町学園の改革事例 (動画を見せながら解説) 先生はあまり声を出さず、生徒に徹底的に音声活動をしている。



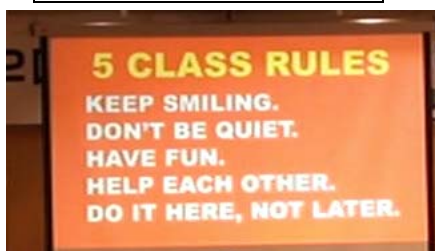
東進ハイスクールの事例 (動画を見せながら解説) 高校3年生の難関大学志望者の夏期合宿の様様。

(アクティブラーニングのシーンで) これは私の授業だが、私は殆どビデオには出て来ない。



自習時間、これが正しい自習時間。(生徒達は皆声を出している) 段々身振り手振りもついて来て、表情も変わってくるこのやり方で‘進学実績があがらないんじゃないか?’という心配があったが、逆に大いに上がった。

アクティブラーニングの実演 (来場者に生徒になって貰う。隣の人とペアを組んで貰い、次のようなルールを示す。“I like your ○○”とお互いに言わす。)



(次にディクテーションをさせるが、これが速くて中々聞き取れないが、何回もやって行くうちに段々聞き取れてくる。そのあと隣同士で書き取った文を見せ合う。正解は、The only way to do great job is to love what you want to do. If you haven't found it yet, keep

looking. Don't settle. (これはスティーブ・ジョブズの言葉。)

私たちは日本人なのだから英語が出来るわけでないということを認めて、活動授業をする必要がある。

(場内からの質問) 文法の授業の配分はどれくらいがよいか。

(安河内氏) センターと同じくらい。15%で良いのではないか。

(最後に) 麹町学園は定期試験を1技能型でやっている。授業は全部アクティブラーニング!

特別講演

講師：下村博文氏（衆議院議員、基文部科学大臣）

テーマ「日本創生」

《概要》 2018年、幼稚園に於ける学習指導要領が大きく変わる。2020年から小学校、2021年から中学校、2022年からは高校に於ける学習指導要領

が大きく変わる。旧来の教員では通用しなくなり、新しい教員研修をしなければならない。塾も従来の様な英語の授業をしていたら生徒は来ない。

長谷川さんという35歳の青年が障害児を対象とした塾をつくり、就業訓練をしている。生徒数は5年で9000人になり、待機が5000人もいる。

オックスフォード大学に入るにはオール5であることが基礎基本であるがそれだけでは入れない。癌で亡くなる人の地域による割合の違いを論文で書かせる。今まで習ったのと全く違う歴史観での講義を聞かせたあと、面接、小論文で講義を聞いた後の感想でなく分析をさせる。人間はなぜ鼻の穴が2つあるのに口の穴は1つしかないのはどういう理由なのかを考えさせるなど問題解決能力、知的好奇心、コミュニケーション能力など一つの正しい答えを出すのではなく、思考能力を重視している。

アメリカで見たアクティブラーニングで、第2次世界大戦について4つの立場（トルーマン、マッカーサー、日本の天皇、日本軍）から考えさせる授業をやっていた。答えがあるわけではない。また、ただ議論するだけではなく相当知識が要るので自分で調べなければならない。ある調査によると授業で習ったことは半年後には1%しか覚えていないが、アクティブラーニングだと50%覚えている。

2045年シンギュラリティ（技術的特異点）について 米国の未来学者のレイ・カーツワイルによると、2045年にシンギュラリティが訪れる。2029年には人間のような汎用人工知能ができる。2030年を境に、それまでの専用型の人工知能、それ以降は汎用人工知能と、大きく違ってくる。2029年には、人間1人分ぐらいの知的能力を、2045年には全人類の能力を合わせたぐらいのコンピューターが1000ドル程度で替えるようになる。

経済学者の井上智洋氏によると、2030年から2045年、雇用が順番に消滅していく。2045年に仕事をしている人は1割、他は失業。それ以降はみな仕事をしていない。今後、人間がする仕事はホスピタリティ、マネジメント、クリエイティビティの3つに特化される。全ての人々がギリシア時代の市民や平安時代の貴族のようになるかどうかは教育にかかっている。



閉会セレモニー



大会宣言をよむ星野勝弘実行委員長

大会宣言

幕末から明治にかけて西洋文明が我が国に押し寄せたとき、進んだ西洋文明に追いつき追い越せというスローガンのもと、明治の大改革は押し進められました。その中であって、“進んだ西洋文明”が依拠する英語やフランス語という言語に対し、“遅れた文明”とされた我が国の母語が辛うじて生き延びることができたのは、福沢諭吉をはじめとする多くの先哲たちが、西洋語を日本語に置き換えることに腐心してくれたおかげでありましょう。

彼らのおかげで、これまで私たちは日本語で高等教育を受けることができたと言っても過言ではありません。そしてこれからも、私たちのアイデンティティの拠りどころとして、この母語を守り伝えて行くことはもちろん大切なことであります。

しかし、航空機やインターネットをはじめとするテクノロジーの進歩によって、明治維新の頃とは比べものにならないほど世界は相対的に小さくなり、グローバルゼーションという大波が今まさに私たちを飲み込もうとしています。

この前代未聞の変革期にあっては、私たちが携わる教育もまた大きく変わらなければなりません。むしろ、20年後、30年後のこの世界を担ってゆく今の子どもたちを教育育てている我々こそが、率先して大きな変革の一步を踏み出すことが必要でありましょう。

そして、このグローバル化の中にあっては、とりわけ私教育に携わる我々の果たす役割はさらに大きくなるでしょう。

というのも、明治19年に公布された帝国大学令第一条にあるとおり、公教育は「国家ノ須要ニ応スル學術芸ヲ教授」するもの、つまり「国家に必要な人材を育てる」ことを目的として制度設計されたものであるため、そもそも“国家”という概念自体を踏み越えようとするグローバルゼーションという考え方とは、その理念の上で相容れないものだからです。

一方で、私たち私塾や私学は、我が国において“国家”という考え方が生まれる以前から「世のため人のためになる人材を育てる」ことを目的としてスタートしました。そういう観点からも、私塾や私学で教育に携わる私たちは、グローバルゼーションという大波にあっても揺るがず、勇気をもって変革の一步を踏み出すことができるはずで

今こそ我々はともに手を携えて、目の前にいる子どもたちを「世のため人のためになる人材」として育てることに心血を注いでまいりましょう。そして今日のこの研修大会が、その一つの契機となることを祈念して、大会宣言といたします。

2016年11月3日
NPO 塾全協 第42回全国研修大会
実行委員長 星野勝弘

山下典男 NPO 塾全協西日本ブロック理事長
の挨拶



森貞孝 全国学習塾協会理事長の挨拶。



懇親会

